

早いものでメキシコに滞在してから4カ月が経過しました。メキシコにももちろん冬はありますが、日中は日差しが強く、半袖で歩く人々もちらほらと見られます。さて、スペイン語の学習をメインにして日々を送っていますが、私たちが通う学校では一つの学期が終わるごとにテストが行われています。今回のレポートでは **CEPE** の期末テストについて書いていきたいと思います。来年度以降の研修参加を考えている方々の参考になれば幸いです。

CEPE の学期末テスト

私たちが通う **CEPE** はひとつのセメスター(約2ヶ月)ごとに学期末テストがあります。成績が60パーセント以上取れなければ、次のレベルのクラスに上がれずにもう一度同じクラスを受けることになっています。また、70パーセント取れなければ奨学金が一か月分停止されるというペナルティがあります。

テストの方法

テストはコンピューターを使って行われ、リスニング、リーディング、作文の問題を解き、トータルで60点という配分になっています。そこからさらにオーラルのテストが20点、出席、授業態度が20点です。レベルが上がるごとにテストの難易度も上がるので、普段の授業以外に自分で語彙力を増やしたり、文章を読んだりする練習が必要です。また、今回の私のレベル(*español 5*)のコンピューター試験時間は2時間半となっており、大変長いです。そしてテストの解答が終わると作文以外の点数が即座に表示されます。作文の配点が15点ですので、リーディングとリスニングを合わせた45点満点で表示されますが、だいたい30点以上は取っておかないと全体の評価に影響してきます。

オーラルの試験は二人一組で行われ、時間は30分程度です。自分が話すテーマはくじ引きで決められるので、ここで難しいテーマを引いてしまうとかなり苦勞することになります。同じレベルのテストでも、人によってテーマの難易度が大きく異なる場合があるので、幅広い知識と語彙力が必要になります。参考例として、今回の私のオーラルの試験問題について少し書きたいと思います。まず、くじを引いて、そこに質問文が書いてあるので自分のペアに質問をします。私が質問したのは「人々の生活を大きく変えた発明品はなんだと思うか?」といった感じでした。次の問題は、「自分の子供時代に戻りたいか、戻りたくないか」という質問に二手に分かれて簡単なディベートをしました。私は戻りたいという立場で話をしたのですが、その際にカードが配られ、「子どもに戻りたい理由」「子どもだったらなくていいこと」「子どもにしかできない遊び」など、話す内容についてヒントが書かれています。ディベートが終わると試験官の先生から「子ども時代の一番楽しかった思い出は何か?」など軽い質問をされました。3問目はカードが配られ、ネットで恋人を探すことについて自分の意見を話す、という内容でした。オーラルの試験では発音やそのセメスターで習った文法が使えているかどうかなどが評価の対象になるそうです。私のテーマは比較的簡単なものでしたが、同じレベルのテストを受けた友人によると自分の国の女性の雇用状況や移民問題など

社会問題についての質問など、普段の会話では出てこないような内容を話さなければならない時もあるので、普段からスペイン語で新聞やニュースをチェックすることなどが必要になります。

試験の結果はだいたい1週間以内にネットで見ることができます。今回は8割近い点数を取ることができましたが、とても簡単とは言えないテストですので、これからも引き続き自主的な勉強を続けていきたいと思います。

テストを乗り越えると約一か月間の冬休み期間に入ります。年末は学生割引でバスが半額になるなど、メキシコシティ以外に旅行に行くなど、時間を有意義に使うことができます。

プエブラ観光

プエブラはメキシコシティから120 km東に位置する観光都市で、バスで2時間ほどの場所にあり、日帰り観光することが可能です。植民地時代のプエブラ旧市街、近郊にある Cholula の古代遺跡トラチウアルテペトルがユネスコの世界文化遺産に登録されています。

砂糖菓子の家 18世紀に副王の迎賓館として建てられ、現在は古代文化や美術品の博物館になっている建物です。屋根部分の装飾は生クリームを載せたようで、砂糖菓子を連想させるような造りになっていることからこのような名前がついたそうです。日本にいるときに観光サイトでこの建物を見て、是非訪れてみたいと思っていた場所なので実際に見たときはとても感動しました。内装もロココ調で豪華に装飾されています。



プエブラの名物料理 プエブラに行ったらこれを食べる！そう決めていたものがいくつかありました。ひとつはチレス・エン・ノガダといって、大きな唐辛子に豚のひき肉、アーモンド、バナナなどを詰め、生クリーム、クルミ、ザクロの実をかけた一見不思議な料理です。プエブラの名物料理らしいのですが、時期が違うので今は出していないと言われてしまいました。そこでモレ・ポブラーノを使った料理を注文することにしました。モレ・ポブラーノというのはモレというソースの一種で、木の実やチョコレートを使って作られているものです。こちらもプエブラの名物になっています。プエブラには料理だけではなく、有名なお菓子も数多く存在し、「カモテ」というサツマイモを練って作った郷土菓子が有名です。カモテ以外にも砂糖煮などの伝統的なお菓子が販売されていますが、日本人にはかなり甘すぎる味になっています。

